

総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
中高一貫教育を推進する。	《全校レベル》 [1] 中学・高校それぞれが相乗効果を生み出し、本校の活性化に役立てる。 [学力向上検討委員会・教務課・進路指導課・特別活動課] 下位組織レベル 中高一貫教育の特徴を生かし、生徒一人ひとりに応じた学習指導・授業展開の実践。 [各教科]	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	・中高合同での学校行事等によって、お互いの交流が深まっている。 ・6年間を見とおしたシラバスの作成が必要。 中高一貫教育に係る教育課程等を積極的に外部へ広報する。 中高の部活動顧問の連携をより一層密にする。	
		重点目標:[1] ・中学生と高校生の交流充実を図る。 学校行事、生徒会活動、部活動	重点目標:[1] ・学校行事等において、可能な限り合同で行った。	(評定) A		(所見) 中学・高校合同で行う集会や富東祭・部活動等に取り組む中において、中学・高校の交流が深まるような工夫努力を積み重ねる。 各自が反省や工夫をして、授業力アップにつながった。 各下位組織自己評価 [教務課・進路指導課] 各教科会で教育課程とシラバスを検討し、満足いくものができた。 [特別活動課] 中高一環教育開始の初年度であるので、試行錯誤しながらも工夫して実施できた。
		・中高教職員による教科会を実施する。 ・中高教職員による授業交流や進路研究会を行う。 ・中高一貫教育を生かした教育課程の編成と教育内容の創造。	・国語科は中学校の授業者が参観研究授業を行った。 ・中高の違いや自己を振り返るきっかけとなり有意義であった。 ・枠組みはできつつあるものの、教育内容の具体的創造まではできていない。			
		活動計画	活動計画による実施状況			
	《全校レベル》	《全校レベル》				
	・中高相互の授業見学、研究授業及び研究協議を行う。	・中高相互参観授業や3年次研修、初任研の研究授業と協議を行った。				
	下位組織レベル	下位組織レベル				
	[教務課・進路指導課]	[教務課・進路指導課]				
	・教科(科目)ごとに教育課程を検討し、編成する。 ・シラバスを作成する。 ・面接を通じて、将来のことを考えさせ、自発的活動を促す。	・教科ごとに次年度の教育課程を検討し、それをまとめて編成した。 ・各科目ごとにシラバスを作成した。				
	[特別活動課]	[特別活動課]				
	・富東祭(文化祭・体育祭)を中高合同で開催する。 ・部活動で中高合同の練習を行う。	・富東祭(文化祭・体育祭)に中学生も参加させるという形(中高合同)で開催した。 ・部活動についても、活動場所に配慮しながら中高合同あるいは単独で活動した。				

総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
地域に関わられた特色ある学校づくりを推進する。	《全校レベル》 [] ・特色ある学校づくりを推進する。 ・「学校評議員制度」等、地域の教育力の	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	・ホームページの更新や
		重点目標:[] ・学校評議員会・関係者評価委員会を年間2回開催し、意見を聞く機会を設ける。 ・ホームページを定期更新(月	重点目標:[] ・学校評議員会及び関係者評価委員会を年間2回開催できた。 ・ホームページの更新は毎月7~8回程	(評定) A	

<p>活用とともに，地域住民に学校の活動を周知し，地域に信頼される学校づくりに努める。</p>	<p>2回以上)する。 ・『ひがし倶楽部』を年間8回発刊し，小中学校等に配布広報する。 ・PTA 総会の参加保護者 50%以上をめざすとともに，創立百周年にむけた同窓会の取組を推進する。 ・大学視察等，PTA 研修会を実施する。</p>	<p>度できた。 ・『ひがし倶楽部』は 10 回発行し，小中学校，教育委員会へ配布広報した。 ・総会参加率はわずかに 50%を割った。創立百周年への同窓会の取組は，準備委員会や実行委員会を開き，事業内容等を決定した。 ・神戸と大阪方面の大学等で見学や研修会を行った。</p>	<p>『ひがし倶楽部』発刊は目標をクリアできた。 ・中高一貫校のメリットを生かして，早い時期から大学進学等を見据えた行事へ参加を啓発していく。</p>	<p>上に努め，すべての課でHPの更新ができるよう努める。 富東中学生の保護者に対しても，大学見学，研修会への参加を積極的に呼びかける。</p>
<p>下位組織レベル PTA 活動の充実・促進に努め，教育活動全般について，保護者との連携を図る。 [総務課・進路指導課]</p> <p>学校行事を充実させるとともに，積極的な公開に努める。 富東祭・中学生体フェスタ等の実施。 [特別活動課・体育科・教務課]</p> <p>中学校との連携を強化する。 [教務課・進路指導課]</p>	<p>活動計画 《全校レベル》 ・中学，高校，全日制，定時制，商業科，普通科，看護科など多様な課程や学科の特性を生かした特色ある学校づくりをする。 ・地域の教育力を活用するため，学校運営について，有識者から意見を聞き，学校運営に反映する。</p> <p>下位組織レベル [特別活動課・体育科・教務課] ・生徒会役員等を中心に地域の様々なイベント・行事等に参加し地域社会との交流を進める。 ・総体時には応援バスを出し，学校あげての応援態勢をくむなど文武両道を実践する。 ・ホームページ上で部活動の活躍や進路実績等の情報を提供する。 ・学校の活動を広く地域住民に広報する。 ・公開授業の実施。</p>	<p>活動計画による実施状況 《全校レベル》 ・地元企業の経営者から講演していただき，生徒の人間性等の自己研鑽に役立てた。</p> <p>下位組織レベル [特別活動課・体育科・教務課] ・生徒会役員等を中心として，地域の老人（高齢者）体育大会や成人式にボランティアとして参加するなど，交流に努めた。 [特別活動課] ・総体や選手権大会の決勝戦に応援バスを出すなどして，学校をあげた「文武両道」を実践できた。 [体育科] ・公開授業は 10 月 24 日（日）に実施した。</p>	<p>(所見) 中学生体験入学に参加して「とても良かった」が 67% (昨年 62%)。 教職員が「熱心に授業に取り組んでいる」「様々な工夫をしている」と答えた生徒は 80% を超えている。 「学校行事は適切で，楽しいものである」と答えた生徒 88% を超えている。</p> <p>各下位組織自己評価 [特別活動課・体育科・教務課] A 生徒会は生徒会長を中心に自主的によく活動できた。地域との積極的な交流という面でも貢献できた。 応援団の編成により，学校あげての応援態勢を組み「文武両道」を実践した。 ホームページ上で『ひがし倶楽部』等を通じて学校の活動の様子を広報できた。</p>	<p>百周年を見据えて，外部講師による講演会等を積極的に開催する。</p> <p>中学生と協力して，全校あげたボランティア活動を複数回実施するとともに，広く地域への広報活動も行う。</p> <p>公開授業等の学校開放の広報について，より効果的な方法を検討する。</p>
<p>[総務課・各学年] ・総会の行事内容を保護者のニーズにあったものになるように工夫し，総会欠席者は，総会資料の配付や三者面談時に総会内容に触れる。 ・保護者との情報交換を行う。</p>	<p>[総務課・各学年] ・PTA 総会の午後，各ホームルームで保護者懇談会を実施した。</p>	<p>[総務課・各学年] ・PTA 総会の午後，各ホームルームで保護者懇談会を実施した。</p>	<p>[総務課・各学年] 担任と保護者の理解が深まった。</p>	<p>中高合同のPTA 総会の進め方を再検討する。</p>
<p>[各学年・各教科・教務課・進路指導課] ・中学生体験入学，ふれあいフェスタの各参加者 500 人超をめざす。 ・保護者向け進学説明会を実施する。</p>	<p>目標 [各学年・各教科・教務課] ・中学生体験入学は 8 月 18 日（水），ふれあいフェスタは 8 月 1 日（日）に実施した。が，500 名は超えなかった。 ・保護者対象の進学説明会を実施した。（1 年 87 名 2 年 89 名 3 年 133 名出席）</p>	<p>[各学年・各教科・教務課] ・中学生体験入学は 8 月 18 日（水），ふれあいフェスタは 8 月 1 日（日）に実施した。が，500 名は超えなかった。 ・保護者対象の進学説明会を実施した。（1 年 87 名 2 年 89 名 3 年 133 名出席）</p>	<p>[各学年・各教科・教務課] B 体験入学は 465 名，ふれあいフェスタは 240 名であった。 今年の説明会は， A 学年で協力して内容を吟味した。</p>	<p>「ふれあいフェスタ」では，内容の検討と広報活動をより早い時期に行う。また，小学校への広報を積極的に行う。</p>

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
授業に対する生徒の学習意欲や充実感の向上を図り、生徒一人ひとりの学力向上をめざす。	《全校レベル》 [] 授業の改善・工夫による生徒の学習意欲や充実感・達成感の向上 下位組織レベル 授業公開や教員研修会、授業評価を通じた教員の指導力の向上 [学力向上検討委員会・教務課・進路指導課] 生徒一人一人に応じた学習指導の実践 [各教科会] 効果的・能率的な [各学年・各教科・進路指導課]	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 (評定) A (所見) 生徒の授業への満足度は83.1%であった。昨年度と同数字であった。 一週間の総家庭学習時間は、平均32.7時間。目標を達成した。時間のみでなく学習内容の調査も必要か。	・授業研究の充実などを通じて、高い水準の授業づくりを推進しているが、各教科ごとの総合的な満足度は、84.2%～95.4%と差がある。 ・授業満足度は、83.1%とおおむね高い。(昨年と同%) ・家庭学習時間は、31.2時間(1回目)、34.2時間(2回目)と目標をクリアできている。	学習意欲や授業の予習復習への取組をさらに向上させるには、授業の中で予習復習の重要性を意識づけ、そのポイント等を指導する必要がある。 RRC(授業理解度確認テスト)や課題テスト等によって、学習意欲を喚起させる内容・形式となるように一層の改善に努める。 教科会においても、授業のみでなく、家庭学習も視野に入れた総合的な指導方法を検討していく必要がある。 民間教育機関の研修に参加した教員の研修成果の共有化を、各教科全体で今以上に図る。 中高合同の研究授業、授業評価の機会を拡充する。 家庭学習時間等の調査については、経年変化等を分析し、その結果をもとに対策を策定する。
		重点目標[] 学習に対する意欲や達成感の向上 70%以上	重点目標:[1] ・学習に対する意欲や達成度は、83.1%の生徒があてはまると回答。保護者の89.7%が授業が学力向上につながっていると答えている。教職員は熱心に授業に取り組んでいるとの回答は91.0%。			
		重点目標: 一週間の総家庭学習時間(考査前～考査中) 一人平均30時間以上	重点目標: 《全校レベル》			
		活動計画	活動計画による実施状況			
		《全校レベル》 ・学力向上検討委員会において生徒の学力向上を図る授業の展開を促す。	《全校レベル》			
		下位組織レベル [学力向上検討委員会] ・研究授業・公開授業・外部講師招聘による教員研修、授業評価アンケート等を実施する。	下位組織レベル [学力向上検討委員会] ・中高間による授業の相互参観や初任者の授業研究を実施して、よりよい授業への検討を重ねた。	各下位組織自己評価 [学力向上検討委員会] 相互授業参観や協議を重ねて、授業への工夫が広がった。		
		[各教科会] ・教科(科目)ごとに設定した研究テーマに基づく授業を実践し、さらに相互評価を通して、よりよい授業の指導方法を研究する。	[各教科会] ・一人ひとりの生徒に応じた授業を実践するとともに、適度な課題を出して生徒の実力アップを図った。	[各教科会] 一人ひとりを大切にしたい授業はできていると思われる。		
		[各学年会・各教科会・進路指導課] ・教科担任は課題を出し、ホームルーム担任は学習記録表を提出させる等、家庭学習習慣が定着するように努める。	[各学年会・各教科会・進路指導課] ・毎朝、学習記録を提出させ生徒の学習状況を把握して指導した。 ・課題提出や小テストを定期的実施した。 ・週末課題や日々の課題を出すことによって、家庭学習習慣を定着させる努力をした。	[各学年会・各教科会・進路指導課] 各ホームルーム担任がよく尽力している。 B 課題等による学習はできているが、自分で考え取り組む姿勢が、まだ不十分と思われる。		

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策			
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見				
基本的な生活習慣に対する生徒の意識の向上を図る。 下位組織レベル 生徒にチャイム（時間）を守らせる習慣づけ [学年会・生徒指導課・各教科] 全教職員による服装・頭髪・マナー等の指導の徹底 [生徒指導課] 中高一貫を念頭においた学校行事展開の工夫 [特別活動課]	《全校レベル》 [] 基本的な生活習慣に対する生徒の意識の向上	評価指標 重点目標：[] 生徒の生活習慣への満足度 90%以上	評価指標による達成度 重点目標：[1] ・87.7%が満足している。良好ではあるが、さらなる向上を目指す。	総合評価 （評定） A （所見） チャイムが守れる生徒は93%であった。全校的な取組の成果が現れている。 マナー向上や時間を守るための取組をさらに行っていく必要がある。 生徒(66.6%) 保護者(83.5%) 各学年団、各課の連携により望ましい生活習慣の育成に いる。 保護者の生徒指導方針への賛成87%、生徒62.4%	・あいさつ、服装やルール、マナーの遵守について生徒の自己評価は90%を超え、良好である。一部生徒の駐輪場でのマナー違反があり、今後向上させていく取組が必要である。	各評価指標ともかなり高い目標達成レベルにあるので、より高い目標に向けて、新しい評価指標についても検討する。 中学生と協力したあいさつ、マナー向上の活動を生徒主体で考え、実施する。 6年間のスパンで豊かな人間性を育む学校行事を検討する。 昇降口指導や服装デーで違反により指導される生徒は、数パーセントである。事後指導の担任・学年間の共通理解を図り、指導の統一性を図ることが課題である。 教職員間では、「チャイムを教室で聞く」ことは定着している。今後は、生徒がチャイムとともに授業に取り組める体制づくり（指導）が課題である。		
		重点目標： チャイムが守れる生徒 90%以上	重点目標： ・遅刻をしない91.9%（生徒） < 昨年比4.3%減 >				総合評価 （評定） A （所見） チャイムが守れる生徒は93%であった。全校的な取組の成果が現れている。 マナー向上や時間を守るための取組をさらに行っていく必要がある。 生徒(66.6%) 保護者(83.5%) 各学年団、各課の連携により望ましい生活習慣の育成に いる。 保護者の生徒指導方針への賛成87%、生徒62.4%	
		重点目標： 服装・頭髪の決まりが守れる生徒 90%以上	重点目標： ・全体91.5%（昨年91.7%） （商）93.3%（普）91.1% （1年）91.7%（2年）91.0%（3年）91.7%					
		重点目標： 豊かな人間性を育むために学校行事を積極的に計画する。 学校行事への満足度 80%以上	重点目標： ・88.4%の生徒が学校行事に満足している。					
		活動計画 《全校レベル》 ・生徒指導課が中心となって全教職員間で共通理解を図り、望ましい生活習慣の育成に努める。	活動計画による実施状況 《全校レベル》 ・「昇降口指導」や「服装デー」等で担任副担任が中心となって、生徒指導課と連携協力して指導にあたった。違反があった生徒の事後指導も指導事項の共通理解を図って行っている。					
		下位組織レベル 目標 [学年会、生徒指導課、各教科会] ・HR担任と教科担任は、始業のチャイムを教室で聞く。多遅刻者については、保護者への連絡を密にする。	下位組織レベル 目標 [学年会、生徒指導課、各教科会] ・「富東タイム」の設定により、担任は職朝が終わるとすぐ各教室へ向かっている。遅刻の多い生徒への指導や家庭連絡もよくできている。					各下位組織自己評価 [学年会、生徒指導課、各教科会] 各担任は主体的に行動できている。 A 限られた授業時間をフルに活用できている。
		目標 [生徒指導課] ・ホームルーム活動、全校・学年別集会を通して服装・頭髪・マナーについての自覚を高める。	目標 [生徒指導課] ・生徒：マナー84.7%（昨年83.6%） 保護者：マナー86.1%（昨年86.2%）					[生徒指導課] 生徒の数値は少し向上した。 B
		目標 [特別活動課] ・部活動紹介や部登録の時間を設定し、入部を促す。	目標 [特別活動課] ・入学後の早い時期に部活動紹介や部登録の時間を設定した。複数部可能のため、入部率100%以上を達成できた。					[特別活動課] 1年生は原則全員入部としているが、2年3年生においても入部率100%以上を達成できた。 A

自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	評価	学校関係者の意見	
生徒の個性を活かした文武両道の教育を推進する。	<p>《全校レベル》 [] 部活動・生徒会活動・各種委員会活動の活性化に努める。 [特別活動課・学年会]</p> <p>生徒一人ひとりの進路希望の実現に努める。[進路指導課(進学)(就職)・各学年会・商業科]</p> <p>下位組織レベル 顧問会議等の開催と部活動の活性化。 [特別活動課・体育科]</p> <p>生徒会活動の積極的広報と生徒会活動への理解を促す。</p> <p>各種委員会の活性化。 [特別活動課]</p>	<p>評価指標</p> <p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動の加入率(1・2年) 100%をめざす 四国大会, 全国大会出場部数の増 文化部のコンクール等参加を促進する。 	<p>評価指標による達成度</p> <p>重点目標:[1]</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化部, 体育部ともに活発な活動が行われ, すばらしい成果をあげた。 複数部可能のため, 入部率 100%以上を達成できた。 	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 体育文化後援会の援助もあって, 体育部・文化部ともに十分な活動ができています。 県内企業からの求人が少ないので, 企業開拓の必要がある。 	<p>全職員で本校の目指す文武両道を再確認する。</p> <p>創立百周年に向けて, 文化部の協力体制を確立する。(放送部による富東記録ビデオ作成等)</p> <p>検討会へは, 3年以外の教員の参加を積極的に呼びかけ, 今以上の全校あげた受験指導体制構築を行う。</p> <p>管理職を含めた県内企業への求人新規開拓をより積極的に行う。</p>
		<p>重点目標:</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路について検討会を行う。 難関大や医歯薬系の合格者 20名以上をめざす。 インターンシップを体験させて, 自分にあった職業を選択する契機とし, 就職内定率 100%をめざす。 商業科では, 全商 1 級 3 科目以上取得者 50%以上をめざす。 	<p>重点目標:</p> <ul style="list-style-type: none"> 4 回検討会を実施した。(1 学期末・2 学期中間・2 学期末・センター試験後) 就職内定率は 100% (2 月末現在) 1 級 3 種目以上取得者 48% (2 月末現在) 	<p>(所見)</p> <p>検討会を 4 回実施し, 担任とともに生徒の実力把握と進学についての知識を深めてもらい, 進学指導力の向上が図られた。特別活動については, 全体的に高い評価(生徒 89.3%)を得ている。また, 91.6%の生徒が教室は楽しいと回答している。部活動は活発で「文武両道」のもと, 多くの部が活躍した。就職内定率については, 厳しい経済情勢のなか, 100%を達成できた。</p>		
		<p>活動計画</p> <p>《全校レベル》</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動の活性化を図る。 	<p>活動計画による実施状況</p> <p>《全校レベル》</p> <ul style="list-style-type: none"> 壮行会等において役員が自主的な進行を行う。 	<p>各下位組織自己評価</p> <p>[学力向上検討委員会・進路指導課]・[特別活動課]</p> <p>表彰や壮行会を行うことで生徒の一体感が醸成された。</p>		
		<p>下位組織レベル</p> <p>[学力向上検討委員会・進路指導課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動と学習の両立を, ホームルーム活動や学年集会等で指導する。 部活動紹介や壮行会, 表彰伝達等で生徒の意識高揚を図る。 面接指導等を適宜行って, 両立できるよう注意していく。 面接指導等をとおして, 生徒の特性や長所などを把握する。 オープンキャンパス参加等で進学への意識づけを行う。 職業観や勤労観の育成に努め, キャリア教育を推進する。 検定対策補習や進学補習を充実させる。 卒業生との進路対談会等を実施する。 	<p>下位組織レベル</p> <p>目標 [学力向上検討委員会・進路指導課・特別活動課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 壮行会, 表彰伝達等で部員の意識高揚や学校としての団結力等を育成できた。 部活動顧問等による面接を適宜行っていく。 外部講師によるビジネスマナー講習会や進路指導講演会を実施し, 将来の就職等への心構えを学んだ。 	<p>[進路指導課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 面接等で生徒の力の把握ができています。オープンキャンパスにはほぼ全員が参加している。 補習の充実を図り, 土曜補習も実施した。卒業生の話聞く機会も設定し経験が参考になった。 		

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
人権教育の推進と環境美化教育の実践。	《全校レベル》 [] ・生徒一人ひとりの人権尊重の精神を高め、人権感覚をみがくために、教育活動全般をととした人権教育の取組を充実させる。〔人権教育課〕 ・校舎内外の環境美化に努め、学校環境をととのえる。〔環境・保健厚生課〕 下位組織レベル 人権ホームルーム活動の充実 各教科における人権学習・人権教育の推進 [各教科・各学年]	評価指標 重点目標:[1] ・『人権新聞』発行回数7回以上 ・生徒対象の人権教育講演会等の実施 ・人権問題教職員研修会を年4回実施	評価指標による達成度 重点目標:[1] ・富東『人権新聞』の発行回数は7回発行できた。(中学校の人権問題意見発表会の作文も含む。) ・今年は、生徒対象の人権教育映画会を実施した。 ・職員人権研修会は3回実施した。 ・PTA研修会(教職員を含む)を4回実施した。 ・実施できなかった。	総合評価 (評定) B	・人権に配慮した教育活動については、アンケート結果から(生徒)79.8%(保護者)94%と、概ね達成されていると考えられる。今後は、生徒の数値が85%程度になるよう指導方法や内容等の工夫改善をしていく。 ・新校舎を美しく引き継いでいけるよう、清掃活動に取り組む。
		活動計画 《全校レベル》 ・各クラスの状況に合わせて、資料等を探し、展開等を工夫する。	活動計画による実施状況 《全校レベル》 ・人権ホームルーム活動 1年・2年は6回、3年は5回実施。	(所見) 『富東人権新聞』で取り扱う課題をもう少し幅広く選択できればよかった。 研修会ではワークショップを取り入れた研修を実施できた。 ホームルーム活動で取り扱うテーマを一部変更し、新しい資料で実施することができた。 清掃時に全ての生徒が自主的意欲的に取り組んでいるかが、課題である。新しい校舎を美しく引き継いでいけるよう、継続して生徒・職員がともに取り組んでいくことが必要である。	
		下位組織レベル [人権教育課] ・富東祭において「人権展示」等を行う。	下位組織レベル [人権教育課] ・富東祭において人権問題啓発ポスターの展示、人権週間(12月)にポスター標語・書道作品の展示。	各下位組織自己評価 [人権教育課] B 昨年度に比べやや作品数が少なかった。	
		[環境・保健厚生課] ・学期末や行事の折に大掃除を実施する。 ・紙の有効利用等、省資源活動に取り組む。 ・資源ゴミの分別収集をし、ゴミ削減に取り組む。 ・廃油(天ぷら油等)の回収活動に取り組む。	[環境・保健厚生課] ・回数と時間が少なかった。 ・リサイクルやリユースに協力した効果は大きい。 ・特別教室や職員室から出るゴミの分別ができていなかった。 ・職員生徒ともに協力的であった。	[環境・保健厚生課] A' 校内美化に関する様々な取組が行われていると答えた生徒は、58.2%であった。 70%台になるよう、清掃活動にもう少し真剣に取り組みたい。	
		実施日の検討。			
		体験をととした学びの活動を少しずつ充実させる。 ワークショップ形式の研修については、PTA、教員対象にとどまらず、生徒の活動にも取り入れることを検討する。			
「人権展示」は、今以上に中高が協力して実施する。					
学校版ISOの周知徹底と節電節水及び環境美化(校舎を美しく大切にすること)について、生徒の意識啓発高揚を図っていく。					